

公園内で見られる植物

写真は5月12日(土)
自然観察会で見られた
植物です



カマツカ (バラ科)

材が硬くて折れにくいので、鎌の柄に使われたことからこの名が付いたと言われています。別名ウシゴロシとも言われるのは、牛が枝の間に角を入れると抜くことができないくらい強靱であることから付けられています。花は梅の花に似ていますね。白い花は遠くからでも緑に良くはえ、目立ちます。



エゴノキ (エゴノキ科)

実の味がエグイ為の名だそうですが、エゴサポニンと言って石鹼の代わりにしたり、川で魚を取るのに用いたと言われている為、口に入れようなどとは思いません。エゴノキと言ったらアブラムシによって、猫の足を思わせる、エゴノネコアシフシをこの時期に見る事ができます。猫の足や、葉っぱを巻いた、オトシブミを探してみてください。



カナメモチ (バラ科)

材が硬いので、昔扇の要に使われていたことから付いた名のようにです。別名アカメモチは、新芽が赤くきれいな為、赤芽鱗と言われました。これが訛ってカナメモチになったとも言われています。生け垣に良く植えられています。私はアカメと呼んでいますが、花は初めて目にしました。小さな花が数多く賑やかで、意外ときれいですね。



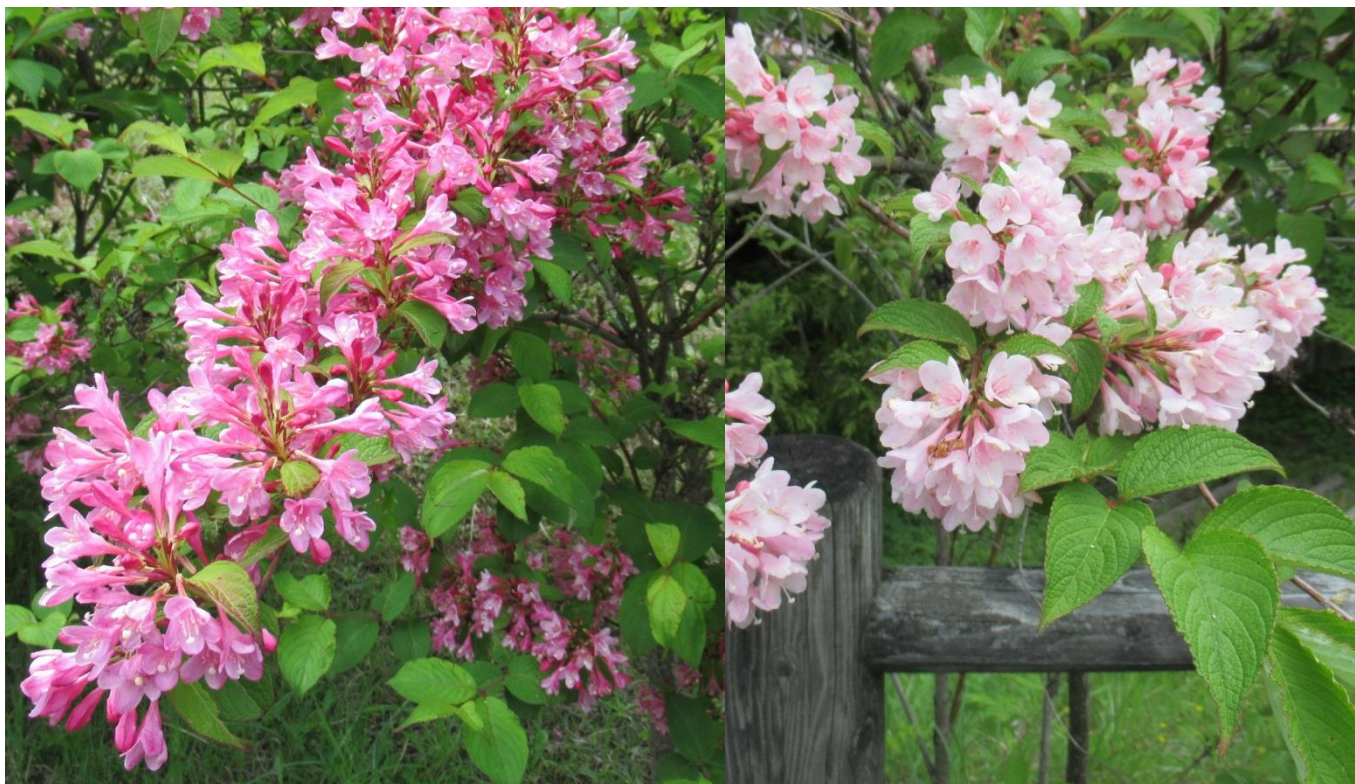
キリ (キリ科)

伐ることによって若木が早く出て成長するという事で、切る木から、キリとなったそうです。日本でも古くから、材が軽くて狂いが少なく、湿気を通さないとされ、箆箭なら桐が一級品とされ珍重されました。花は紫色で、気品がありますね。実の中には多数の種があり、乾燥した実は振るとサラサラと音を立て、白い翼の付いた種が飛び散ります。タネを出し切るとリースの材料になります。



コツクバネウツギ (スイカズラ科)

名前にウツギとありますが、幹や茎の中はウツギと違い中空ではありません。幹や茎の雰囲気やウツギに似ていることから付いたようです。近頃ツクバネウツギと同じ仲間、アベリアの花を良く見かけます。



タニウツギ (スイカズラ科)

タニウツギロードと言ってもよいくらい、公園内の本線沿いにたくさん植えられています。紅色や淡いピンク色の花が美しいですね。初夏を告げる花です。名前にウツギと付いていますが、中空ではなく髓として軟らかいスポンジ状のものが詰まっています。タニウツギは方言が色々ありますが、その中でも「サオトメバナ」というのはこの花に相応しい名前ではないでしょうか。



ニセアカシア (マメ科)

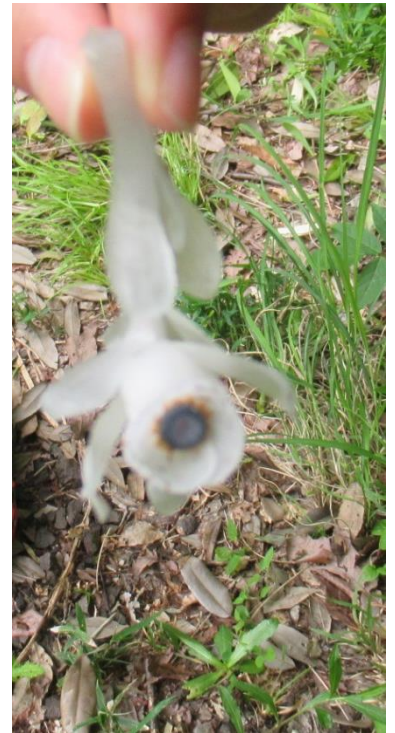
和名を「ハリエンジュ」といいます。花を花穂ごと天ぷらにしたり、新芽を和え物や油いためにしても食べることができます。花をホワイトリカーに漬けて、アカシア酒として甘い香りのするリラックス酒はいかがでしょう？北海道の暖房用燃料として条件の厳しい土地でも、生育がきわめて速い為、多く植えられていたそうです。蜂蜜の蜜源としても、この花は無くってはならないものです。



コナスビ (サクラソウ科)

小さな黄色い花が目飛び込んできます。

名前の由来は果実の形態を茄子に見立てたものであるというのが通説のようですが、似ているとは言えません。どちらかといえば茄子の苗の段階で花が付いた姿が茄子に似ているかも？昆虫にとって黄色は良く目立つ色だそうです。小さい花は必至で受粉できるように工夫しているのですね。



ギンリョウソウ (イチャクソウ科)

名前の由来は、下向きに付く花とウロコ状の鱗片葉に包まれた姿を竜に見立てたものです。別名ユレイタケといわれています。中央の雌しべはキノコ状でふちは紫色、周りの黄色い色が雄しべです。



ツルニチニチソウ (キョウチクトウ科)

つる性の多年草です。家にもありますが、非常に繁殖力が強く少々切ってもすぐに伸びてきます。これは青色ですが、白や紫色のもあり、一見テッセンの小型版です。



ヒメハギ (ヒメハギ科)

花が小さくてハギを連想させるのでこの名があります。鳥が飛び立つような独特の花の造りから、独立したヒメハギ科になっています。日本には種類が少ないです。

写真では見えませんが、茎には白っぽく短い細毛が密生し葉にも細毛があります。特に緑の部分に多いようです。茎は硬いく、基部で分枝して地をはって、斜め上に伸びます。